

今日はいんめいひやく
안녕하세요

日本の文化に接して

文学研究科博士課程前期一年 ◆ 具 惠 卿
Ku Hye Gyeong

はじめに

個々の国には、その国独特の文化が存在している。その国では良い意味として一般的に行われている行為が、ほかの国では非常に悪い意味での行為として受け止められたりする。たとえば、日本と韓国とでは、可愛い子供の頭を撫でるのが良い意味として行われているが、中近東の地域では、絶対してはいけないことなので驚くことがある。

このように、自分の文化に慣れている人が多文化に対する抵抗は、カルチャーショックとして現れる。しかし、それをその国の独特の文化として受け入れればそれが非常におもしろく、また、身近に感じられるのである。日本も日本独特の文化があり、韓国でも韓国古来の独特の文化があつて、韓国人はそれを良いこととして自負してきた。自国の文化は、ほかの国に出掛けてみて、良い点と悪い点を発見する。

私も日本に留学に来て、文化の違いを実感した。元来、大学で日本語を専門にしていたので、先生と先輩たちから日本の文化について聞かされる機会が多かつたのでカルチャーショックはなかつたが、日本に来る前まで半信半疑していたことが、実際体験してから納得した。それでは、両国の間の文化の違いについて述べてみよう。



韓日両国の間の文化の違い

第一、食文化について考えてみよう。韓国では、食事の時、茶碗を持ち上げて食べる習慣がない。もし、茶碗を持ち上げて食べるこゝろがあつたら行儀が悪いと叱られる。しかし、日本では茶碗を持ち上げて食べる。

それから、日本では、ご飯と味噌汁をいっしょに食べようとする時、ご飯の上に味噌汁をかけて食べる傾向があるが、韓国では味噌汁の中にご飯を入れてたべるのである。それは、スプーンの使用未使用にかかわる問題であると思われる。

韓国では、昔からスプーンとお箸が併用されてきて、ご飯と汁のあるものはスプーンで、お箸はお箸で食べるので、茶碗を持ち上げる必要がない。ちなみに、お箸でご飯を食べる行為

もやはり、行儀の悪いこととして叱られる。

第二、人の家を訪問した時の習慣もおもしろい。日本では玄関から床のほうに上がる時、すぐ出られるようにお客自身がドアのほうに向けて靴を脱いで上がるが、韓国ではお客は靴を脱いでそのまま入ってくる。後から家の人が、お客さんがすぐ出られるように靴の整理をする。

第三、会話中人からある事柄について聞かれた時、「私？」と反問することがある。その場合、日本人は二番目の指で鼻を指しながら「私？」と反問する傾向があるが、韓国人は手のひらで自分の胸のあたりを当てながら「私？」と反問する。

第四、家での普段の生活の場合、女性の座り方として、日本では正座をするが、韓国では足一本だけを立て膝にするのが一般的な座り方なのである。この座り方は、民族衣装であるチマチョゴリ装束の時の座り方で、最近あまり行われていない。

第五、家屋の造りについて述べよう。日本に来て驚いたことは、部屋と部屋がたいていくついているということであつた。それも壁ではなくて、障子一枚で仕切られているのである。そんなにくつついていてプライバシーは保証されるのであろうかと思われる。

韓国では、部屋と部屋がくつついている場合が稀である。たいてい居間とか床の間とか廊下などを挟んで家を作る。それが自分の家のことであるならば、それなりにいいと思うが、隣の家のことになるとちよつとは抵抗がある。

部屋と部屋との間のくつつき具合が、家と家との間も同様のようである。マンションの場合も、隣の家の声がよく聞こえる。そのことから考えてみると、日本の家屋作りは開放的、韓国の場合は閉鎖的である傾向が見られる。

第六、言葉遣いについても考えてみたい。

たとえば、会社で上司の不在の場合、電話がかかってきた時、上司にもかかわらず「〇〇はおりません」というふうに普通語を使って答えるが、韓国では、「〇〇さんはいらっしゃいません」というふうに尊敬語を使って答える。このように、尊敬語の使用においても、相対的・絶対的尊敬語の使用がまたおもしろいのである。

相手の国の文化を尊重し、理解しあうために

私は、日本に来て生活している限り、日本の文化と礼儀を尊重してその文化と礼儀作法をなるべく理解し、身につけようと心掛けていくことが大切であると思う。それは、日本だけでなくほかの外国の場合も同じであると思う。

互いに相手の文化を尊重し、理解し合えたら、その国の人ももっと親密になり、それが国際的にも貢献するのであると思う。そうになると、その国の文化と自国の文化との違いをその国の友だちに伝えることが可能になり、もっと親密感を深める道になるのではないかと思う。

プロフィール

- ◆ 一九六五年ソウル市に生まれる
- ◆ 一九八九年韓国外国語大学日本語科卒業
- ◆ 一九九三年韓国外国語大学大学院日本語科卒業
- ◆ 一九九三年来日
- ◆ 一九九四年広島大学大学院文学研究科国語学国文学専攻博士課程前期に入学し、現在に至る